

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第 10 号(平成 22 年 4 月発行)

さる 3 月 16 日(火)に平成 22 年第 1 回定例会が開会され、同月 26 日(金)に一般質問が行われ、議案 9 件が可決、議案 1 件が同意され閉会しました。

今回は、三平一良議員(四日市市議会選出)、小林正人議員(三重県議会選出)の二人が四日市港港湾行政に関する質問を行い、管理組合執行部に答弁を求めました。

主な質問・答弁要旨

三平一良 議員



国際コンテナ戦略港湾への応募については、名古屋港との連携が不可欠であると考えているが、いかがか。また、国に対してはこれまでどのような働きかけを行い、今後どのような働きかけを行っていくのか。

国際コンテナ戦略港湾の応募については、四日市港としては、伊勢湾の港として名古屋港と連携して取り組んでいくことが必要であると考えてきたところですが、当初名古屋港は単独で応募する意向を示していました。そこで、中部地方整備局に対し働きかけをする一方、名古屋港へ具体的な連携策を提案し、協議を続けてきました。その結果、四日市港と名古屋港は共同で応募することになり、計画書の目論見を国に提出しました。両港は、一港化を視野に入れて連携施策を推進していくとしていますが、選考の関係上、現時点では詳細を申し上げられません。今後、国際コンテナ戦略港湾に選定されるよう、色々な機会を通じて名古屋港と共に伊勢湾の重要性について訴えていきたいと考えています。

小林正人 議員



物流の安心・安全を支える港づくりに関して、岸壁・上屋の老朽化対策に今後どのように取り組むのか、また物揚場の立入制限区域についても早期に補修するべきと考えるが、今後どのように取り組んでいくのか。

岸壁・上屋については、経年による老朽化が進行していますが、まだ利用需要はあり、適切な維持補修による施設の長寿命化を図りたいと考えています。上屋については耐震対策を含む老朽化対応計画を策定し、平成 23 年度から事業着手する予定です。岸壁についてはアセットマネジメントの概念を取り入れた手法で維持管理を行う予定で、24 年度までに維持管理計画を取りまとめ、25 年度よりこの計画を基本として施設の維持管理を実施していく予定です。物揚場については建設から 50 年以上が経過し、利用需要も低いため、岸壁等と比べると優先順位から早期補修は非常に困難な状況にあります。現在は職員による巡視、月 1 回の定点測定により、崩壊等の危険性の高い場所については順次補修を行っています。

詳細な質問答弁等については、当組合議会ホームページ会議録をご覧ください。